



横浜 日産スタジアム 2017年8月19日(土)

競技結果

女子4×100mR 記録 54秒37	予選 フィールドキッズ 5組4着 (北山・伊佐・北村・上山) 準決勝進出 SB※1
女子4×100mR 記録 54秒46	準決勝 1組7着
友好 女子100m 記録 16秒51	小川ことみ(フィールドキッズ) 1組8着
男子走幅跳 記録 4m76	決勝 小坂翔真(耳成南陸上クラブ) 15位 PB※2
男子走高跳 記録 1m30	決勝 田中佑昇(フィールドキッズ) 16位
女子走高跳 記録 1m30	決勝 下村美桜(フィールドキッズ) 5位

※1 SB:Season Best(今季最高記録)
※2 PB:Personal Best(自己新記録)

横浜の日産スタジアムで行われた小学生の全国大会にフィールドキッズから7名、耳成南陸上クラブから1名が奈良県の代表として出場しました！
まずは奈良県選手団のコーチとして大会に参加した丹羽亜矢子コーチに大会の総括をしていただきます！

奈良県選手団のコーチとして全国大会に帯同した丹羽です。今大会において奈良県は、五年生男子の100mが大会新記録で優勝、女子走り高跳び5位入賞という素晴らしい結果を残しました。また、その他にもたくさん準決勝進出、自己新記録があり、大いに盛り上がる事ができました。選手達は普段の大会とは違いチームを越えた仲間やコーチ、保護者の方々の応援があったことで、高いモチベーションの中試合に臨めたと思います。それがこの結果に結びついたのでしょうか。この経験を通して、家族や仲間に対する感謝の気持ち、応援する姿勢の変化があれば、コーチとしてとてもうれしく思います。(丹羽談)

各コーチによる結果報告

今回、耳成南陸上クラブから小坂翔真君が男子走り高跳びに出場しました。本人はあまり納得していないようでしたが、初めての大会で自己記録を更新し、素晴らしい試合をしたと思います。跳躍競技において一本目のフールは、精神的なダメージが大きいのですが、臆せず二本目を跳べたことが三本目の自己新記録につながったと思います。彼はキャプテンとしてクラブを引っ張ってくれていますが、全国大会を終えてから、更に頼れる男になったなと思います。(西川談)

今大会はフィールドキッズを設立して9年で初めての全国大会でした。男女走り高跳び、女子のリレーで計7名の選手が参加し、女子走り高跳びは5位入賞、女子のリレーはチーム記録を大幅に更新して準決勝進出を果たしてくれました。
友好レースでの出場となった小川ことみちゃんは、全国大会最初の種目ということもあり、開会式も出れず、仲間とも別行動となったので、とても緊張した状態だったと思います。スタート練習の甲斐もあり、本番では誰よりも速いスタートをきる事ができたが、その結果少しバランスを崩して転倒してしまい、思うような結果は得られませんでした。しかし、最近の試合では使っていなかったスタブローを大舞台で使う決断をし、全国の大舞台でチャレンジする攻めの姿勢、強い気持ちを持って臨めたことは素晴らしい経験だったと思います。

男子走り高跳びの田中佑昇君は、体調が万全でなかったにもかかわらず、誰にも何一つ弱音も吐かず、猛暑の中試合に臨んだ姿に感動しました。去年走り高跳びで全国を逃して涙した一年前を思うと、この一年で大きく成長してくれたと本当に思います。自己記録と同じ高さを跳んでいれば入賞できたという悔しさは本人が一番感じていたと思いますが、立派な結果でした。女子走り高跳びの下村美桜ちゃんは、1m30までをノミンスで跳ぶという目標を実現させ、5位入賞となりました。1m30の選手が10名という過去にないハイレベルな大会で、その一員になったことは素晴らしいことだと思えます。また、練習会などを通して細かい技術指導や試合運びなどいろいろアドバイスをくださった里風の竹之内コーチの存在は大きかったです。女子のリレーは奈良県選手団でのチーム新記録を更新に大きく更新し、全てにおいて最高のバトンパスを行い、準決勝に進出しました。前日に決意表明で述べた54秒台で準決勝進出という目標が達成できたことが何よりも良かった。準決勝前は暑さも有り、全体的に疲れている様子もあったが、気持ちで乗り越えたと感じます。予選のタイムには及ばなかったものの、バストに近いタイムで走りきれたことは立派です。
今回初の全国大会を大人数で参加できたことはチームとして最高の思い出になりました。コーチ達も遠い中応援に駆けつけてくれたお陰で、普段のフィールドキッズと変わらない雰囲気を作ってもらえました。何よりも、保護者の方々の応援が一番力になったと思います。今回出場した選手は、この経験を忘れず、また次の目標に向かって進んでほしいです。(丹羽談)